

『レスチレン®リド』と『レスチレン®リフト™リド』

長いおつきあいを築く

患者さまとの 信頼関係を 何よりも優先する クリニックを目指して

内科専門医としての経験と技術を活かして、美容皮膚科・美容外科医となつた藤井クリニックの藤井靖成先生。内科的な健康長寿はもちろん、患者さんが求める「見た目」の若さと美を、信頼関係を築きながら実現していく、藤井先生が思う「るべき美容医療」とは。

開業してから10年以上が過ぎましたが、思い返してみると、ここまで道筋は意外と自然なものでした。内科医として働いていた時から、医者の役割について考える機会が多くあり、治療を担当した重病患者さんから「しない」「嬉しい」と言われ、悩んだこともあります。そのような経験が、治療対象となる前の健康、つまり、病人になる前をしっかりと診ていきたいという気持ちを次第に大きくしていったのです。その結果、元気に若く美しく生きることをサポートする医療に携わることになりました。

消化器内視鏡専門医を若くして取得され、指導医にまでなられた内科医でいらっしゃいますが、美容医療の分野に入られた理由は?

大阪(梅田) 藤井クリニック 院長
藤井 靖成先生



内科の分野では、患者さんに感謝していました。大変なやりがいを感じていました。現在行っているアンチエイジング医療でも、同じように、ある意味ではそれ以上に、患者さんに喜んでいただける機会が多く、大変嬉しく思います。

医師の価値は、患者さんに信頼していただき喜んでいただくことにある、と思っています。その意味では、ある意味で一番厳しい目を持っていて、ごまかしのきかない、クリニックのスタッフから信頼されることが大事であると考えています。

内科と美容医療、両方からお考えになるアンチエイジングについてお聞かせください。

生理学的に言えば、老化は20代から始まっていて、老化というものは高齢者だけの問題ではありません。「老化は疾病の一種である」という論文が2015年に発表されていますが、今や、老化を病気とみなした治療が求められる時代になってきたと言つても良いでしょう。しかし、現段階では老化を「止める」というのは難しい。そこで、医師となるべく多くの現実的な対策の選択肢を持ち、患者さんの限られた原資をどこに投入すればより良い結果、緩やかなエイジングと健康長寿を目指せるのかを考え、患者さんに分かりやすく説明し、納得していただいた上で治療を選択実施する、それが私の治療方針です。

内科から始まった医師のキャリアなので、患者さんは「一生のおつきあい」

す。からだの内側から健康長寿を考え、免疫力を高めるためのアドバイスも行なっています。

前提で、中長期的に何ができるかを考えて提案しています。

うことがあります。また、からだの外側「見た目」に関しては、例えば顔のしわですが患者さんのお顔にある今のしわ、これは来年も増えていくという

藤井先生のクリニックでは、どのような患者さんが注入治療を選択しますか。

20代でも老化は始まっているというお話をしましたが、スマホの使い過ぎによつて起る、目元周辺のお悩みでは、比較的若い方にもヒアルロン酸注入を選択します。

基本的には、悩みを抱えて来院する多くの患者さんにヒアルロン酸注入が有効であると考えています。



内科の観点から見ると、加齢による愁訴は更年期から多くなります。「見た目」の加齢による変化に悩んで来院なさるのも、この年代がコアとなっていました。いわゆる更年期は、実はアクティブな生活を送つており、やりたい事、やらなければならぬ事がたくさんある年代であると同時に、いろいろな点で加齢を感じる年代でもあります。そして、経済力もある年代と言えるでしょう。

この年代の悩みである、しわやたるみの治療は、溝を埋めたり引っ張ったりという方法を考える前に、顔全体のボリュームを診るべきだと考えています。加齢によりボリュームが減少すると、頬、目元などの周辺部分に変化が起こり、たるもののが目立つてくるのです。このようない場合、全体にボリュームを持たせることができると、印象がより若くなり、しわやたるみも改善されます。

適切な注入材により、「底」をしっかりと作ることが重要です。製剤はそれに特性がありますので、我々ドクターは患者さん毎に効果を考えて選択することが必要となります。自然な仕上がりを作ることで、多くの患者さんから満足をいただいています。ボリュームロスやしわ治療を注入治療で行い、皮膚タイトニングをレーザー治療で、という組み合わせ治療は、40代以降でリピーターの多い治療です。

大阪(梅田) 藤井クリニック

〒530-0001 大阪市北区梅田2-1-22
野村不動産西梅田ビル8F
TEL 0120-482-212
<https://fujiclinic.co.jp>



大事にしなければいけないのは「患者さん目線」です。「この先生は、患者の利益を考えてくれる」「先生は信頼できる」と思つて下されば、長いおつきあいの始まりです。腹痛を治すとか骨折を治療するということと違い、美容医療は結果の評価が難しいもの。美容医療に携わる医者にとって、患者さんに満足していただける治療の選択や提案は、多くの経験と高い技術が必要になります。難しい仕事をありますが、患者さんに喜んでいただける素晴らしい分野であり、チャレンジする価値があります。今後、美容医療を学ぶ先生が増えれば、より多くの患者さんを幸せにできると思っています。

美容医療を目指す先生方にお伝えしたいことはありますか。